

俺の名前は魔羅大 (マラデカ)  
フリーターで実家暮らし  
たまに行く風俗と、  
AV鑑賞くらいしか楽しみがない！  
底辺の人間だ



『こんにちは マラデカくん  
これからお仕事？  
頑張っね♡』

この女は咲美 (アケミ)  
子供のころから世話になってる隣の家のオバさんだ  
少し貞操観念がユルいのか、  
よくノーブラでゴミ出しをしている  
ほんとうにエロい体をしている...  
頑張るもなにも... ただのバイトなんだが...



咲美にはアーニャとマーニャという  
二人の娘がいる

俺と二人の関係は、  
いわゆる幼馴染というやつだ

咲美の旦那はロシア人なので、  
娘達はロシアンハーフである

旦那は仕事の都合で、  
ほとんどロシアで暮らしているらしい

母親の遺伝子の影響か、  
娘達もエロい体をしている

美人姉妹と底辺のフリーター  
当然、年を取るにつれ  
二人との関係は疎遠になった



とまあ、今日もバイトをする...  
金がなければAVすら買えない...



VIBRATOR

CONDO

『あら、マラデカ君、  
このお店で働いてるのね！  
今日のおすすめの  
商品はなにかしら？』

LOTION

SM

ROTOR

このオバさん、ノーブラのまま  
買い物をしている...  
無防備にもほどがある...  
自分の体がエロいという  
自覚がないのだろうか...  
いっけ、身近な俺が  
それを理解させてやるのが  
社会貢献なんじゃないかと  
思えてきた...



その日の夜、俺は曉美を自分のものにする  
計画を立てた

アーニャがドラックをやっている動画をAIで捏造し、  
それをネタにして曉美に体の関係を迫る計画だ

曉美は世の中に疎いから、  
最近AIでそういう動画が捏造できるなんて  
思いもしないだろう



翌日...

『あら、マラデカ君、こんにちは  
回覧板かなにかかな?』

『ちょっと娘さんのことで相談があって...』

『きうなのね...じゃあ、中に入る?  
お茶でも出すわ』

本当に無防備だ...  
俺のことを一人前の男として  
見ていないのか?  
まあ、警戒されていないのは好都合だ



『それで、相談ってなにかしら？  
どちらかを好きになっちゃったとか？(笑)』

『...この動画を見てほしいんです』



『こ...これは...アーニャ...』

『先日、友達に誘われて  
新宿のバーに行った時...  
たまたまアーニャが"ドラッグ"を  
やっているのを見たんです...  
僕、警察に通報  
しようって...』

『そ...そんな...  
ちょっと待って...』

『それにアーニャ、  
売春みたいなことも  
してるみたいですね』

『えっ!.....』



『僕の友人が先日、  
ドラッグで亡くなったので...  
こういう店をこのままにしておくのは  
よくないと思います..  
警察に通報しないと！』

そんなことされたら  
アーニヤが警察に捕まっちゃう...

『ねん、お願い...  
私に免じて通報は勘弁して  
もらえないかしら？』



『... 私に免じて？  
じゃあ、僕のお願い  
聞いてもらえますか？』

『なにかしら？  
私にできることなら何でもするわ！』

『僕、昔から咲美さんを  
女性として、恋愛対象として、  
好きでした  
咲美さんが僕に抱かれてくれるなら、  
通報しません』

『.....っ』

『もし咲美さんが  
心から僕のものになってくれるなら、  
アーニャに薬を止めさせるよう、  
僕がこの店に働きかけてもいい  
僕は今、この店の弱みを  
握ってる状態ですからね』



『わかったわ...  
こんなオバさんでいいなら...  
あなたに抱かれます...  
そうすれば通報しないでくれるのね?』

『約束します  
じゃあ、寝室に案内してくれますか?』



『本当に...これから...ここですの??』

『今日から咲美は僕のものになる  
それを咲美の心と体に理解させるために、  
最初は夫婦の寝室で徹底的に咲美を  
犯すんだよ』

咲美って...もう名前呼びなのね...  
徹底的に犯すって...  
さっきまで抱くって言ってたのに...



『ほら、早く脱いでください  
どうせここでロシア人の巨根に  
犯されまくっていたんでしょ?』

『そ... そんなことはないわ...  
主人は淡泊だから...  
それにあんなの大きさも普通だと思うわ...』



『こ...これでいいかしら?』

『いいわけないだろ  
これから徹底的に犯すって言ったでしょ  
全裸に決まってるだろ』

『ごめんなさい!...  
今までこんな明るいところで  
服を脱いだことがなくて...』

『明るいところで脱いだことがない?  
旦那は今まで何をしてたんだ?  
とにかく全裸になりなさい!』

『わ...わかり...ました...』



『なにを恥ずかしがっているんだ？  
いつもノーブラで  
透け乳を見せびらかしてるくせに』

『こんな...透けてただなんて...  
おれは、私の胸のサイズに  
合うブラがなくて...』

『なんだ？まだ何もしてないのに、  
潮を吹いてるのか？  
そのいやらしい紐パンじゃ  
マンコが隠れないのかな？  
それ、何のために履いてるんだ？』

『こんな恥ずかしいこと  
させられたことないから、  
なにかが溢れてきちゃうの...  
私、お尻も大きいから、  
サイズが合うパンツがなくて...』

『その役に立ってない紐パンも脱いで  
股を広げて見せなさい  
腕は頭の後ろで組みなさい』

『...っ  
わかりました...』



『はしたないマンコがよく見えるよ咲美  
まだ触ってもいいのに、  
まん汁が駄々洩れだね  
咲美は恥ずかしいことをさせられると  
喜ぶ変態なのかな?』

『ひどいと言わないでん...』




『しかし、どう育ったら、  
こんなにいやらしい乳になるんだ？  
ほんとに恥ずかしいおっぱいだな...』

『きゃあ！  
いきなり胸を触らないでん...』



むぎゅっ

ぎゅっ




『この乳で旦那を誘惑したのか？  
こんなので迫られたら  
どんな男も墮とせやうだな  
何カッパあるんだ？ 咲美』

『そ... そんなことしてないわ...  
主人はそんなに下品じゃない...  
馬鹿にしないで  
カッパなんて、どうでもいいでしょ...』

くっ...

あ...  
ふっ...

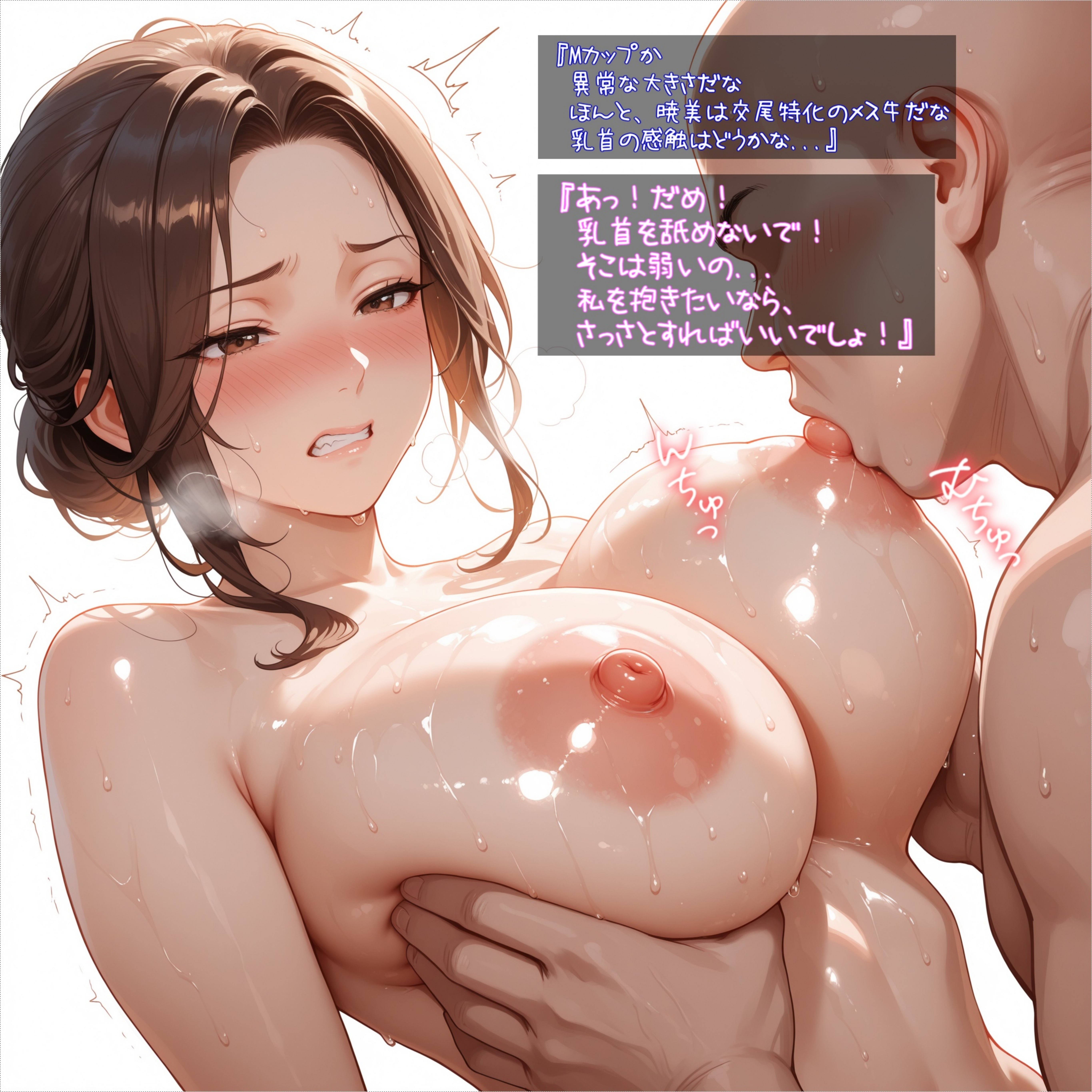


『自分の立場が分かってないようだな咲美  
アーニヤがどうなってもいいのか？  
ほら、何カップあるんだ？  
ちゃんと言いなさい』

『くっ...弱みに付け込んで...  
ずるいわ...Mカップよ...』

くっくっ

くっくっ



『Mカップか  
異常な大きさだな  
ほんと、咲美は交尾特化のメス牛だな  
乳首の感触はどうか...』

『あっ！だめ！  
乳首を舐めないで！  
そこは弱い...  
私を抱きたいなら、  
さっさとすればいいでしょ！』

ん  
ちゅっ

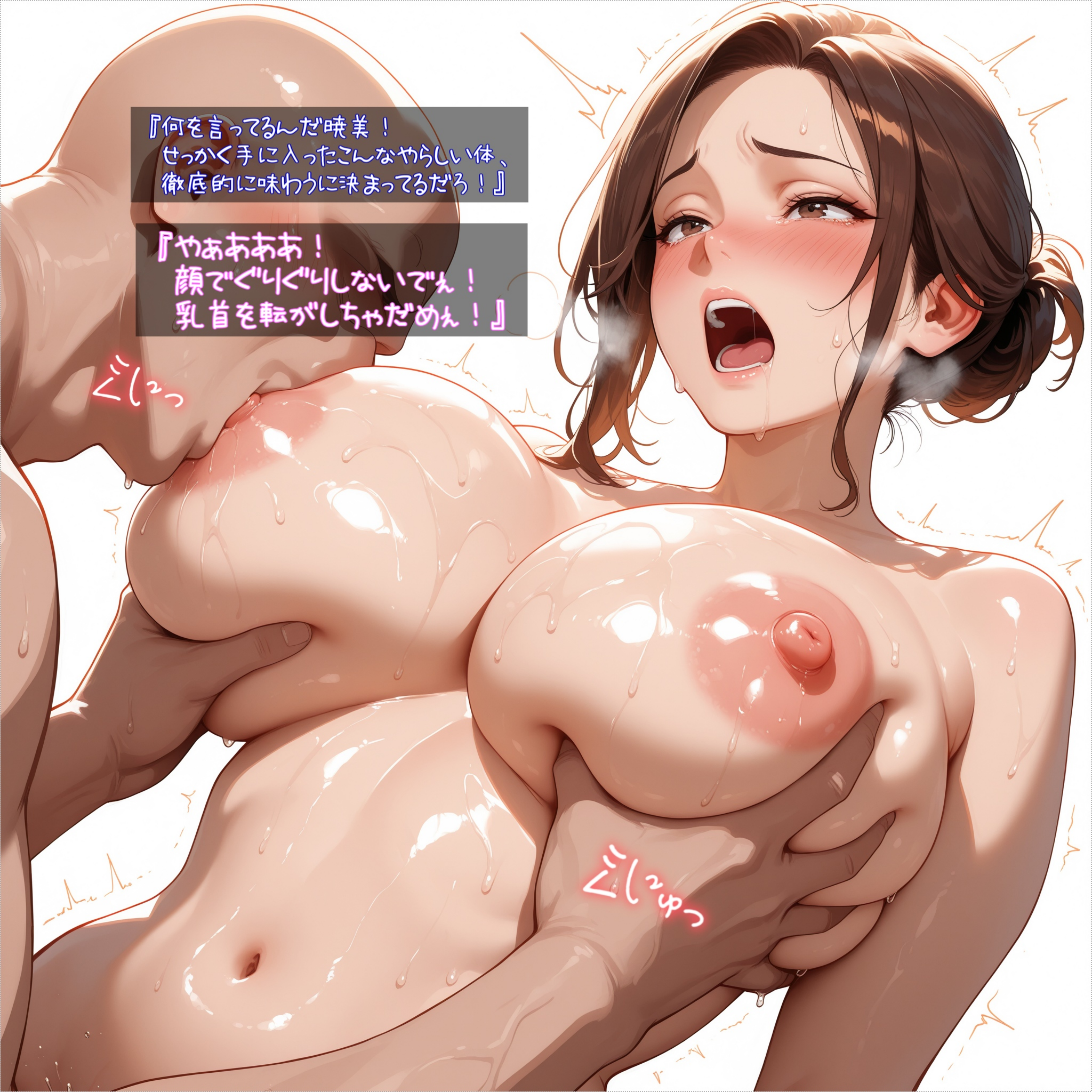
む  
ちゅっ

『何を言ってるんだ咲美！  
せっかく手に入ったこんなやらしい体、  
徹底的に味わうに決まってるだろ！』

『やああああ！  
顔でぐりぐりしないでん！  
乳首を転がしちゃだめん！』

ぐしゅっ

ぐしゅっ





『いつも見せびらかしてるだけあって、  
すごい巨乳だな、曉美！  
極上の触り心地だよ』

『大きいから...確かに目立っちゃうけど、  
見せびらかしてなんかいないわ！  
侮辱しないで...』

くっくっ

くっくっ



『ほら、じゃあ、そのいやらしい乳で  
パイズ"しろ！』


『うん？どうしたらいいの？  
そんなことしたことないわ...』

『おっぱいでチンポを揉んで、  
舌でチンポを舐めるんだ  
この乳でパイズ"したことない？  
お前の旦那はなにを考えてるんだ？』

『主人は淡泊だから...  
こうすればいいの？』

む  
に  
ゅ

む  
に  
ゅ



『乳房でチンポをしごいて、  
舌で鬼頭をいやらしく  
舐め回すんだよ  
ほんと、何も知らないんだな』

『やう言ってるでしょ  
こんな女抱いたって楽しくないわよ  
さっさと済ませて...』


むぎゅっ

むぎゅっ

『そう言いながら、  
熱がこもってきたか？ 咲美  
ほんとは興奮してるのか？』

『そ... そんなことはないわ...  
アーニヤのために  
仕方なくやってるだけよ...』





『ストップだ咲美！  
このままだと出したくなる  
射精するのは咲美を  
たっぷり堪能した後だ』

『...もうやめていいのね？』

はあ...

はあ...

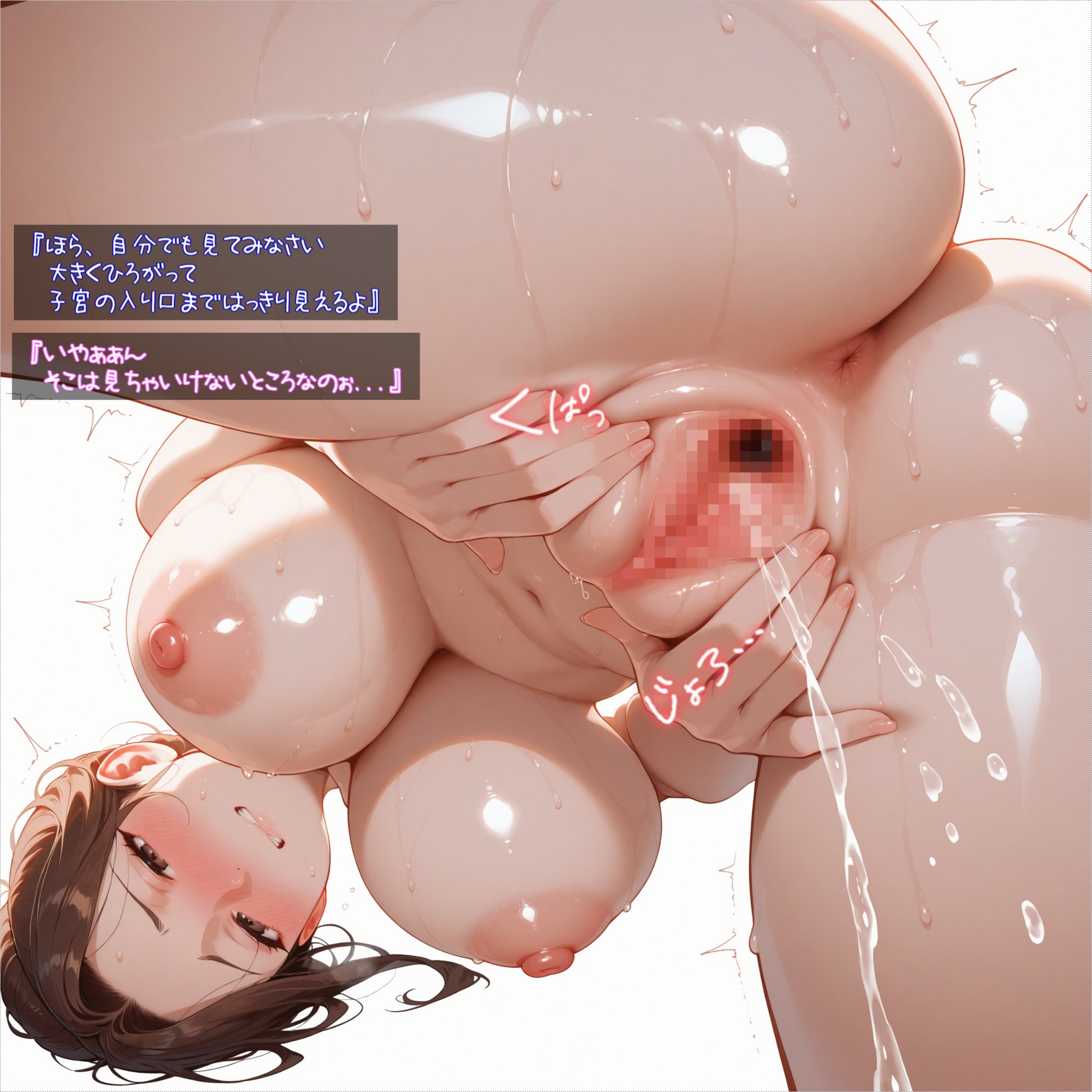


『最初は映美を存分に楽しませろ  
まずは映美、自分の指でマンコを広げなさい  
ただ漏れのマン汁をよく見せるんだ』

『だめん... そんなご命令しないでん...』

『何度も言わせるな！  
アーニヤがどうなってもいいのか？  
アーニヤが更生できるかどうかは  
映美の態度次第だぞ』

『...っ... わかりました...  
で... でも...  
そんな風に中を覗いちゃ駄目ん...』



『ほら、自分でも見てみなさい  
大きくひろがって  
子宮の入り口まではっきり見えるよ』

『いやああん  
そこは見ちゃいけないところなのお...』


くはっ

じゅる...

『ほら、その大きな尻をこっちに向けなさい  
アナルも一緒に鑑賞させろ』

『きんなところ、じっくり見ちゃだめん...  
お尻の穴は鑑賞するところじゃないのお...』






『アナルもマンコもすごいやらしいよ、咲美  
これから両方とも俺のチンポでいっぱいにするからな』

『お尻の穴も??  
そんなところにおちんちんを入れちゃだめん...』

ん(っ)っ

ん(っ)っ



『子宮の奥からどろどろ愛液が溢れてくるぞ  
咲美、本当は喜んでるんだろ』

『こんな恥ずかしいことされたの  
初めてだから、  
びくびくしてるだけなのお...』

ぐっしょっ

『見られてるだけで興奮して  
こんなに潮を吹いて...  
かわいい最高のマンコだよ咲美！  
咲美はマゾなんだね！』

かわいいマンコ？  
ちょっとドキドキしちゃう...  
それに私がマゾって...



『さあ、俺のちんぽをぶち込む前に、  
この淫乱マンコを  
たっぷりほぐしてあげよう』

『淫乱マンコなんていわないでん...  
そんないやらしい触り方しちゃだめん...』




『でもマンコは触られて喜んでるぞ！  
素直になれ咲美！』

『びっくりしてるだけなのお...  
喜んでるなんて、嘘なのお...』

ぐちゅっ

ぐちゅっ





『ほら咲美、自分のマンコが挟られているのを  
よく見るんだ  
しっかり目に焼き付けなさい!』

『いやあ...  
私の中をかき回さないでん...』

ぐちゅっ

ぐちゅっ

『だめっ！だめえええっ！  
なにかが昇ってくるううう！』

『うん？咲美、イキそうなのか？  
じゃあ、マンコに集中して、  
たっぷり快楽を受け止めなさい』



『あひっ！うひいりん！  
来るッ！きちゃううう！  
ふぐうううう♡』

『なんだそれは！  
曉美、いつときは  
ちゃんと イキます！といいなさい！』



ぐちゅっ

ぐちゅっ

『らめん... 止まらないのお...  
おかしくなりゆうう  
こんなのはじめてん...  
はじめてなにょおおお♡』

『もしかして咲美、初イキなのか？  
じゃあ初イキさせてくれた俺に、  
感謝と服従ののキスをしろ』

『はひいりん♡』





『ほら、ペットの犬のように舌を出して、  
これから自分のご主人様になる  
俺の顔を目に焼き付けなさい』

『はいはいはい  
これでいいかい？』



ハフ  
ハフ

『もっとだ！もっと舌を出せ！』

『はふう...はふうんんん』



『いいぞ咲美！  
発情した牝犬の顔に  
なってるぞ！』

『はああああん  
わふうううん』

ハッ

ハッ

『曉美の唾液、美味しいよ！  
もっともっと舌を絡めてきなさい！』

『べろおおおお  
むちゅううう♡』


むちゅっ♡

んちゅっ♡

『唾液がたっぷり溢れて、  
とても良いよ  
たっぷり愛情を込めて  
舌を絡めてきなさい』

ぐちゃぐちゃ♡  
ぐちゃぐちゃ♡

『ぶちゅわん  
じゅるじゅる♡』



『俺の唾液も舌を絡めて  
しっかり舐めとるんだ！』

『んぐっ、んむっ  
べろっ、べろっ♡』

むちゅ♡  
♡ちゅ♡  
♡ちゅ♡

んちゅ♡  
♡ちゅ♡

『咲美、愛情のこもったベロキスはどうか？  
たっぷり堪能したかな？』

『らめん...こんな濃厚なキス、はじめてん...  
脳みそがとろけちゃうぅう♡  
心が奪われちゃうぅう♡』

『ほら、次はご奉仕だ  
これから自分の主人になるチンポを  
目に焼き付けなさい』

いあっ!!

『やああああん  
顔の上に乗っけないでん...  
おちんちんしか  
見えないいいい!』

『ほら、次はご奉仕だ  
これから自分の主人になるチンポを  
目に焼き付けなさい』

いあっ!!

『やああああん  
顔の上に乗っけないでん...  
おちんちんしか  
見えないいいい!』

『ほら、次はご奉仕だ  
これから自分の主人になるチンポを  
目に焼き付けなさい』

しあつ!!

『やああああん  
顔の上に乗っけないでん...  
おちんちんしか  
見えないいいい』

『ほら咲美、  
旦那のちんこと比べてどだ？  
これからこれがお前を犯すんだぞ』

や  
あ  
あ  
ん

『だめえええ  
主人の何倍も大きいのお...  
こんなに大きなおちんちんで  
犯すとかいわないでん...』



『ほら、おちんちん様に、  
服従の口づけをしろ！』

しゅあ♡  
♡あ♡


ああああ...  
自然とキエしたなっちゃう...  
これが牝の本能なのお？



『今からこのチンポで  
徹底的に犯されるんだぞ  
咲美、自分のマンコがこれで  
いっぱいにあるところを想像しなさい』

こんなに大きいもので  
徹底的に犯される??  
私、どうなっちゃうのお?

あーっ



『頼ずりして確かめなさい  
お前を犯したくてたまらないって  
言ってるだろ?』

ああ、ガチガチになってりゆう...  
焼けた鉄の棒みたいに  
あちゅいいいいい...

『物欲しそうな顔をしてるぞ咲美  
牝の本能が疼いてきたか？  
しゃぶられて命令されるのを  
待っているのか？』

しゅあぁん  
あぁん  
あぁん

『そ... そんなことないのお...  
変なこといわないでん...』

ああ... でも.. 私....  
心の奥底でこのおちんちんに  
犯されたがってるのお？

『期待どおり命令してやる  
咲美、俺のちんこをしゃぶれ！』

う  
ん  
ん

『き...  
期待なんてしてないのお...  
惑わせしないでん...』

『咲美、素直になれ  
ほら、喉の奥まで受け入るんだ！  
アーニヤがどうなってもいいのか？』

ぐっ  
ぐっ

ぐっ  
ぐっ

『....  
わかりましたあ...  
受け入れましょ...』

ああ...喉の奥までいっぱい  
されて...

『お前の口は今日から俺のオナホだ！  
口全体を使って俺のチンポをしごけ！  
俺を気持ちよくしろ！』

ガシッ！

め  
づ  
い  
っ

『うぐっ！  
うふいぶいぶうっ...』

嫌なはずなのに...  
このおちんぽにドキドキしちゃううう...

め  
づ  
い  
っ

じゅぽっ

じゅぽっ

『いつまで俺に動かしてもらうつもりだ？  
しっかり腰を持って自分でしごけ！』

『はひいっ！...  
ふうふううん...』

ああ... 自分から喉の奥にい...  
いいなりになっちゃだめなのにい....

『もっと！もっとだ咲美！  
もっと口全体を使ってしごけ！』

ぐっ(みゅ)♡

ぐっ(みゅ)

『ぐっ！  
うぐぐぐっ！』

くるしい...  
なんでこんなにおっきいのお...  
でもドキドキすけ...

『一番奥までちゃんと入れろ！  
使えないオナホだな！』

ぐちゅっ

ぐちゅっ

グイッ！

『ぐえっ！  
ぐひいっ！』

ああ、だめん...  
気がおくなりゅう...



『ほら、ほら、  
もっと奥までだ！』

ズナッ！

ズナッ！

『うぶっ！  
ふいぶふぶぶっ！』

いやあ...前にでてこないでん...  
これ以上ははいらないっ！...

『咲美、後ろに下がるな！  
それとも上から思い切り  
突っ込んでほしいのか？』

『ふぐっ！  
ふぐぐっ！』

だめん...  
おちんちんにつぶされちゃう...

ズブッ！

ズブッ！



『もうこれ以上後ろに下がれないぞ  
じゃあ、望み通り  
上から喉の奥まで突っ込んでやる』

ズボッ!

ズボッ!

『ぐふっ!  
ぐふううん!』

ああ...  
おちんちんを入れたまま  
回らないでん...

『この格好のほうが更に奥まで入るぞ！  
ほら、口全体で俺のちんぽに奉仕しろ！』

ズコッ！

ズコッ！

『うごっ！  
ごほおおおおっ！』

すごい奥までん...  
そんなに奥まで入れちゃダメ...

『ああ！この体制、いいぞ暁美！  
□全体がチンポに絡みついて、  
最高のオナホになってる！』

チレン！

ズボッ！

チレン！

ズボオッ！

『ふいぞっ！  
ふいぞぞぞっ！』

ああ...だめん...  
おちんちんに脳まで突き刺さる...  
入っちゃいけないところまで  
入ってる...

『だすぞお！ 咲美い！  
一滴残らず受け止めろお！』



『ごぶっ！  
ごぼごぼっ！』

喉の奥に精子が絡みついてくゆく...  
これはお口の中にだすものじゃないのお...

『顔にもたっぷりかけてやろう  
俺の精子の臭いと味、  
しっかり覚えるんだぞ』

『はふうっ  
ふうっ...ふうっ』  
ああ...味も臭いも濃いのお...  
心に沁みついちゃうわ...

『次はちんぽをしゃぶらせながら、  
暁美のマンコを味わうとするかな？』

はぁん...

んんん...

んんん

『はひい？』

しゃぶらせながら... 味わう...  
ってどういうことお...



『ほら、  
俺の上にまたがるんだ咲美！』

『またがりゆう？  
どうしたらいいのふかあ？』

『俺の顔の上にまたがって、  
マンコを見せろ！』